

高校生の進路選択を考える

第8回

このコーナーでは、社会が変化し、大学教育・高校教育・大学入学者選抜も変わっていく中で、高校生の進路選択、高校での進路指導はどのように変わっていくのか、考えていく。

今回は、東京都の進学指導重点校の1つでもある、東京都立八王子東高等学校のキャリア教育・進路指導の取り組みを紹介する。八王子東高校では、生徒に「高い志」を持たせ、その進路希望を実現できるよう、進路指導部と各学年担任が一体となった、3年間を見通した指導をめざしている。そのため、進路指導部を中心に、年に4～5回の担任面談、年に10回程度の学年集会、先輩によるガイダンス、時期に応じたオリエンテーション、2年次10月から4回にわたる進路検討会など、さまざまな取り組みを体系的に行っている。生徒にどのように「高い志」を持たせ、そして組織的に指導しているのか、進路指導主事の松永先生にうかがった。

CONTENTS

東京都立八王子東高等学校

..... p77

- ▶ 早期からの担任面談で、自分の適性と将来像について考えるきっかけを与える
- ▶ 1年次の「職業研究」で世の中の仕事について学ぶ
- ▶ 大学生・大学院生の研究内容や体験談を聞き、進路選択に活かす
- ▶ それぞれの生徒の進路選択を学校を挙げて手厚くサポート

東京都立八王子東高等学校（全日制）

◇所在地：東京都八王子市高倉町68-1

◇沿革：1976（昭和51）年 開校
2001（平成13）年 東京都教育委員会から進学指導重点校の指定を受ける。

◇学級編成：各年次普通科8クラス

◇生徒数：958名（男子502名、女子456名）2017年11月1日現在

◇特色：創立以来、難関国公立大学を見据え、生徒1人ひとりの高い進路希望を実現することをめざし、意欲を高めるきめの細かい学習指導、個性を尊重した生活指導、生徒の適性・能力を活かした進路指導を実践している。部活動や学校行事も盛んであり、学校に軸足を置いた生活の中で、学力だけでなく人間力を高められるよう、部活動と学習の両立を支援している。

◇卒業生の進路：2016年度 卒業生311名
・進路：4年生大学222名、短期大学1名、その他88名
・合格者の内訳（現役生、延数）：国公立大学120名、私立大学500名

高校3年間を通じて“高い志”を維持させつつ 将来の夢につながる進路選択を指導・支援する

東京都立八王子東高等学校 進路指導主任 松永 忠久 先生



早期からの担任面談で 自分の適性と将来像について 考えるきっかけを与える

—八王子東高校では、キャリア教育・進路指導について、どのように取り組んでいますか？

本校では、2年次の11月に修学旅行を実施していますが、そこを分岐点に高校3年間で半分ずつに区切り、前期は自分の将来像を考えさせ、就きたい職業につながる大学や学部・学科選びを段階的に促す「基礎固め」、後期は各自がめざす目標の達成に向けて邁進する「探求的な学習期」と位置づけています。そのうえで、生徒が自己の進路希望を実現できるよう、「進路指導部と各学年担任が一体となった、3年間を見通した指導」に取り組んでいます。

修学旅行を終え、後期がスタートした11月末に、志望校と3年次選択科目を決定する最終締め切りを設けているので、少なくとも2年次の夏休み前後には、文系か理系か、どういう学部・学科で何を勉強したいか、ある程度、決めておかななくてはなりません。そのため本校では、1年次からキャリア教育に力を入れています。

まず1年次の1学期に、高校生活や部活動に慣れたところを見計らって、最初の担任面談を行い、その中で「将来」についても問いかけ、「自分を見つめる」「自分の適性とは？」を考えさせる機会を設けています。その際に先生方をお願いしているのは、

「君は完全に理系だね」といった、進路を狭めるような指導は避けてほしいということ。この時期には、自分の世界や可能性を広げる視点を生徒に持たせたいからです。こうした担任面談を学年ごとに年4～5回、節目ごとに行い、生徒1人ひとりの進路希望や心の変遷をカルテ化し、学習指導にも反映させていきます。

また、保護者会でも、「ご家庭でぜひ、自分がなぜ現在の職業を選んだのか、あるいは、社会人として大切にしている心構えは何かなどを、お子さんに話してあげてください」と伝えています。

1年次の「職業研究」で 世の中の仕事について学ぶ

1年次のキャリア教育における最大の行事が、2学期に開催される「職業研究」です。本校の卒業生による進路ガイダンスで、30代前後の先輩たち10名を講師として招聘し、自分の職業について語ってもらうという内容です。教室での講演から、興味のある職業を必ず2つ選んで受講するようにしています。

—どのような職業の卒業生に依頼していますか？

その年により異なりますが、医師、弁護士、AI関係のプログラマー、製薬会社の研究開発に携わっている先輩、IT関係の会社に勤めている先輩など、職種は多岐にわたっていま

す。昨年度は、経営コンサルタントやベンチャー企業を立ち上げた起業家も招きました。本校は例年、理系をめざす生徒が55%、文系志望の生徒が45%くらいの割合となっていますので、理系の職業と文系の職業を半々に選び、バランスを取るよう心掛けています。

講演依頼にあたっては、卒業生がその職業をめざすことになったきっかけ、仕事内容、やりがいと難しさ、自分の仕事はどう世の中の役に立っているのかなど、できるだけ具体的に語ってもらうようお願いしています。高校1年生は、保護者や教員以外の大人たちと接する機会があまり多くありません。そういう職業が世の中に存在することは知っていても、仕事の具体的な内容については初めて聞く話ばかりとあって、皆、話に聞き入っていますね。

聴講した後は、自分なりに感じ取った職業観についてレポートをまとめさせ、担任に提出させます。担任はそのレポートを参考に、その後の進路指導に活かしています。

大学生の体験談を聞き 進路選択に活かす

—大学や学部・学科選びについて

は、どんな指導をしていますか？

自分が興味を持った職業や、将来就きたい仕事がおぼろげながら見えてきた2年次の1学期に、「学問・学部・学科研究」と題して、難関国公立大学に進んだ大学生や大学院生の先輩を招き、進路ガイダンス講義をしてもらっています。システムは1年次の「職業研究」と同じで、理系・文系を半々に、さまざまな学部・学科で学んでいる卒業生10名から、2名の講義を受講させます。

講義時間は1講座50分間。そのうち半分くらいの時間を、大学で学んでいる内容や、大学院で取り組んでいる研究などについて、高校生にも理解できるように紹介してもらい、残りの半分は、高校時代の学びが、今現在学んでいる学問とどう繋がっているのか、彼らの高校生活を振り返りつつ、話してもらおうようお願いしています。「僕は、私は八王子東高時代に、こんなきっかけや出会いがあって、志望校と学部・学科を決めたんだよ」といった話もぜひ盛り込んでほしいと、事前をお願いしています。世代の近い先輩の体験談を聞いて刺激を受け、「自分も〇〇大学の〇〇学部に入りたい」「そのためにもっと頑張って勉強しよう」と、学習意欲を高める生徒も多いように見受けられます。

先輩たちの講義を通して、大学進学後の学びのビジョンが明確に見える点も有意義です。例えば、東京外国語大学に進んだ先輩の話から、外語大は単に外国語を学ぶだけでなく、国際関係の分野で幅広く学問の道が広がっていること。また、工学部の大学院で一般的にはあまり知られていない分野の研究をしている大学院生の話から、その研究ジャンルが将来的にどれだけ有望株であるかを知るなど、生徒たちだけでなく、私たち教員にとっても、勉強になる

話が多々あります。

——卒業生のネットワークを大いに活用されているんですね。

まさにその点が、本校のキャリア教育の大きな特徴です。同窓会が全面的に協力してくれるのも、自分自身が在校時代に同様のガイダンスを受け、進路選択の一助としてきた。そんな経緯があるからだと思います。高校時代に学んだことが、未来への道をいかに切り拓いてくれるか、誰よりもそのことを実感しているのが、他ならぬ本校の卒業生なのですから。

——自分の適性を見つけられず、進路が定まらない生徒に対しては、どんな助言をしていますか？

2年次の夏休み前後になっても進路で迷い、進路指導部に相談しに来る生徒には、自己理解を促す試みとして、「部活動の仲間や仲のよいクラスメイトに、君がどういう人間に見えるか、聞いてみてはどうか」と助言しています。自分では短所だと思っていた部分が、友だちから見ると長所だったり、その逆もあり得ますよね。つまり、本人の自意識と客観的な自分像のすり合わせを行うことによって、自分の意外な適性に気づき、どういう方向に進んだらよいかを考える、いいきっかけになるからです。自己理解を深めることを怠ると、まったく向いていない方向に進路を決めてしまう事例もあるので、自分の適性を考えさせる指導は、特に大切であると考えています。

それぞれの生徒の進路選択を学校を挙げて手厚くサポート

——目標が定まった生徒に学習を促していくにあたり、どのようなサポート体制を敷いていますか？

本校の進路指導のモットーは、

「自分を伸ばしてくれる環境をめざす“高い志”を持つ生徒を育て、その生徒が志望する進路を実現できるように指導・支援する」ということ。全校生徒の約8割が難関国公立大学を志望する学校ですから、“高い志”とはすなわち、第一志望を最後まで諦めずにめざすことを意味します。

ところが、近年の本校の傾向として、浪人してまで難関大をめざす生徒が、若干、少なくなっているという印象があります。当人もさることながら、保護者の方もまた、現役で入れるならば、安全校や実力相応校でもよしとする、そんなご家庭が増えてきています。そこで、“高い志”を維持させるべく、学年集会や担任面談を通して、目標値を高く持ち続けることの大切さを繰り返し啓蒙するなど、目線を下げさせないように、工夫しています。

また、9月と3月には、本校の生徒たちが多く受験する、東京大学、一橋大学、東京工業大学、東京農工大学などの国公立大学の先輩を招き、個別面談を行い、学習のモチベーションに火を点けてもらっています。さらに2年次の三学期には、「第一志望届の作成・保護者との確認」を進級オリエンテーションと並行して実施します。第一志望を自分がなぜめざしているのか、その理由を800字～1200字にまとめるものです。担任に提出し、内容に説得力がない場合は、書き直させています。将来の夢や就きたい職業につながる勉強を自分は今しているのだと、この段階でもう一度、自覚させたいという狙いがあります。

——進路検討会に力を入れているそうですね。

進路検討会は、2年次の10月と、3年次の7月、11月、12月の計4回行っています。全校生徒の志望・

<図>東京都立八王子東高等学校『3年間の進路指導の流れ』

	月	学校行事	1学年		2学年		3学年	
			進路行事	留意する点	進路行事	留意する点	進路行事	留意する点
一学期	4	始業式 入学式 新歓祭	学習オリエンテーション 生活意識調査	・「新入生学習オリエンテーション」(進路部主催)で国・数・英・進路指導のガイダンス。 ・学習と部活、行事が鼎立できるよう、各教科、学年で指導を行う。 ・「 自分を見つける 」「 自分の適性とは? 」を考えさせる指導を行う。 ただし、この時期には、進路を狭める指導は避け、自分の世界や可能性を拡げる視点を持たせる。 ・生徒だけではなく保護者にも早くから「難関国公立大への高い志」を育てることの大切さを説く。	個人面談①	・新しいクラスに慣れる。 ・国・数・英の学習の習慣化に加えて、すべての科目教科をあきらめさせない指導を教科・学年がチームを組んで、指導する。 ・難関国公立を中心とした高い志望を維持させる。	個人面談①	・学年集会、保護者会で最後までセンター試験6教科8科目受験を貫くことの大切さを強調する。同時に高い志望を維持することの大切さを伝える。 ・「受験は団体戦」であることを周知徹底し、学校で学習し、進路実現をはかることを強調する。 ・後期まであきらめないで継続的に学習する意識を持たせる。
	5	スポーツ大会 中間考査 部活動保護者会	進路希望調査① 個人面談①		選択説明会 進路ガイダンス	・ 学問・学部・学科研究 (卒業生による進路ガイダンス) ・夏休みの学習方法のガイダンスを行う。 ・夏休みから上位者は理社受験対策を意識させる。	進路希望調査①	
	6	芸術鑑賞教室			実力テスト① 個人面談② 夏期講習		マーク模試 進路講演会	
夏期休業	7	期末考査 クラブ合宿	7月実力テスト 個人面談②		夏期講習	・ オープンキャンパス参加・レポート提出	記述模試 進路検討会① 個人面談② 夏期講習	・1学期は予習→授業→復習のリズムを崩さず、学校の授業を完璧に理解することに全力を尽くす。 ・校内の夏期講習は前半が国・数・英、後半が理・社を中心として計画する。計画性を伴った受講を指導。
	8	クラブ合宿	夏期講習	・夏休みに「 自分を見つける 」ことに関する課題を課す。 ・しらかし祭後から、成績下位の生徒をアップさせるための指導を強化する。			夏期講習	
二学期	9	しらかし祭	個人面談③			・成績上位の生徒対象の面談(進路指導部)	センター説明会 マーク模試 記述模試	・しらかし祭終了後から、3月の後期試験までの半年間を「探求的な学習」とし、進路実現をはかる(自学自習で目標を達成する)時期であることを自覚させる。 センター対策の開始時期(本格的には12月)と赤本の学習時期を配慮する(生徒個々に合わせた指導)。
	10	中間考査	実力テスト② 進路ガイダンス	・ 職業研究 (卒業生による進路ガイダンス) ・「 自分に適した職業とは? 」 ・ 職業に関連した大学、学部について調べる。 ・ 大学入試の方法について調べる。	進路検討会 実力テスト②	・10月実力テストから理科・社会を受験 ・ 大学研究(志望大学と選択科目を決定) ・3年選択希望票の提出 ・ 前期終了 (探求的な学習期のスタート) 各教科で後期に向けての意識付けの授業を実施(約1週間 11月11日～16日)	センター出願・秋期講習 記述模試	
	11	遠足	進路ガイダンス 進路講演会 進路希望調査②		修学旅行 個人面談③		マーク模試 秋期講習 進路検討会② 個人面談③	
	12	期末考査 スキー教室	小論文模試 冬期講習		小論文模試② 冬期講習	・2年1月～3年3月までの学習計画作成 ・難関国公立大学冬期特別講習(進路部主催) ・全員に冬休みから理社受験対策を意識させる。	進路検討会③ 冬期講習 センタープレ 個人面談④	
三学期	1		実力テスト③	・「 自分を見つける 」「 職業指導 」の完成 (進級オリエンテーションで最終的に実施)	実力テスト③	・ 第一志望届の作成・保護者との確認 (進級オリエンテーションと並行して実施)	センター試験・自己採点 進路検討会④	・センター試験6教科8科目受験を維持させる指導を行う。 目標:6-8受験者240名 ・センター試験の結果を踏まえて、生徒にベストの選択をさせる指導を進路指導部・3学年を中心に全スタッフで行う。 ・後期試験までトライする指導を全スタッフで行う。
	2	合唱祭 部活動保護者会	個人面談④		個人面談④		出願指導 直前講習	
	3	学年末考査 卒業式(3年) 終了式	進級オリエンテーション 春期講習		マーク模試 進級オリエンテーション 春期講習	・理社の春期ガイダンス講習	直前講習 私立入試 国公立入試(前) 国公立入試(後)	

学習状況・指導方針についての理解を共有する目的で、学年の担任団と進路指導部と管理職が一堂に介し、毎回丸2日間を費やして検討していきます。生徒への指導が、本校の進路指導の方針と合っているか、担任から見て気にかかる生徒を手厚くサポートするためには、どのような指導が有効かなど、生徒1人ひとりの現況を学校ぐるみで多角的に検討していく。「受験は団体戦」と、本校が標榜していることの表れです。

——最後に、従来の進路指導に加え、今後、新たに取り入れたい試みがあれば、お聞かせください。

今年の秋、東京大学を志望する1

～2年生の希望者を対象に、「東大生の先輩の研究室訪問」を実施しました。本校では初めての試みです。

研究室での実験を見学させてもらい、先輩に理学部校舎をくまなく案内していただいたうえ、最後は電子顕微鏡などの実験器具にも触らせてもらいました。キャンパスに満ちる、アカデミックな雰囲気に触れ、理学部で行われている研究の一端を実際に見聞きしたことで、生徒たちの受験に対するモチベーションが一気に高まり、「今の実力では無理かもしれないけれど、これからもっと頑張って勉強し、合格をめざしたい」と興奮気味に語る声が多く聞かれました。今後は東京大学以外にも、都内の難関国公立大に

ついては、こうした試みを積極的にやっていたらいいなと考えています。

また、キャリア教育に関してもこれからは、もう一つ先を見据えて、「社会に貢献できる自分」という将来的ビジョンを描かせたいと考えています。「好きなことを学んだ先に、君は社会にどうやって貢献していくの?」と問いかけ、総合的な学習の時間における探究活動などを通して高校生なりに思考し、表現することができるようになればいいな、と。そのために必要不可欠なカリキュラムとは何か、そして、それらをいかにして、本校の進路指導の枠組みに導入していくかなど、現在、いろいろと模索しているところです。